

知的財産戦略ビジョン に関する専門調査会

今後の進め方について

2018年7月

内閣府知的財産戦略推進事務局

●今後の進め方（案）

- ・ 第7回（7/24） 総論1：①ビジョン公表・拡散・反響、②今後の進め方
- ・ 意見交換会（8/28） 総論2：今後の進め方・計画
- ・ 第8回（9/12） 各論1：上記計画に沿って議論
- ・ 第9回（10-11月） 各論2：同上
- ・ 第10回（11-12月） 各論3：同上、可能であれば方向性の決定
- ・ 第11回以降（年明け～来春）：柔軟に対応（方向性の具体化等）

・ 来春

議論の内容に応じて、例えば：

- ・ 知財ビジョンの追補版（第5章の拡充版）を発行
- ・ 現知財ビジョンを一部修正
- ・ 知財推進計画2019の一部に文章を掲載

・・・ほか

「価値デザイン社会」を実現するため、どのようなテーマを検討していくか。

例えば：

A. 知財システム、インセンティブの仕組みに関するテーマ

- ① 価値デザイン力が発揮されやすくするための知財の仕組み
- ② データにまつわる知財の仕組み
- ③ AI（AI創作物等）にまつわる知財の仕組み

B. 知財ビジョンで提案された個別のテーマ

- ④ フルムーンPJを実現する仕組み
- ⑤ 多様な人材・組織が集う場の形成を実現する仕組み
- ⑥ 共感・貢献経済、日本ファンを集積・活用していく仕組み

C. その他

- ⑦ ブロックチェーン（スマートコントラクト）、量子コンピューティング、ゲノム編集などによる、知財システムへの影響について

・・・ほか

※下記は別途検討中 or 検討予定

SDGsプラットフォーム、次世代のコンテンツ創造・活用システム、クールジャパンのストーリー・コンテクスト



① 価値デザイン力が発揮されやすくするための知財の仕組み

- 価値デザイン力が発揮されやすくするためのインセンティブは？
- デザインについて、何らかの権利が必要か否か？

② データにまつわる知財の仕組み

- 何を原則とし、どのような場合に特別のルールを設けるか？
- 個人情報に関するルールや仕組みとの関係は？
- 医療データについて特別な検討が必要か？

③ AI（AI創作物等）にまつわる知財の仕組み

- AI創作物等について、何らかの権利を与えるか？

B. 知財ビジョンで提案された個別のテーマ

④ フルムーンPJを実現する仕組み

- 多様な個性が多面性をフルに発揮できるようにする仕組みは？

⑤ 多様な人材・組織が集う場の形成を実現する仕組み

- どのように多様な人材・組織が集う場を作るのがよいか？
- どのような知財等の取り扱い方（ルール）であれば、オープンイノベーションが促進されるか？

⑥ 共感・貢献経済、日本ファンを集積・活用していく仕組み

- 日本滞在経験者や日本文化等に関心を持つ外国人を登録等して、一定の便益を供与し日本ファンを集積・活用していく仕組みをどのように作っていくか？

⑦ ブロックチェーン（スマートコントラクト）、量子コンピューティング、ゲノム編集などによる、知財システムへの影響について

- ブロックチェーン（スマートコントラクト）によって、従来の知財システムとは違う世界が現れるか？
- その他、知財システムへ大きく影響を与えるものがあるか？（例：量子コンピューティング、ゲノム編集など？）
- この専門調査会で、それらを検討して、方向性を示す必要があるか？

1

知的財産戦略ビジョン ～「価値デザイン社会」を目指して～

平成30年6月、知的財産戦略本部

→ <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/>

2

知財のビジネス価値評価検討タスクフォース ～ 経営をデザインする ～

平成30年5月、知的財産戦略本部 検証・評価・企画委員会 知財のビジネス価値評価検討タスクフォース

→ https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/keiei_design/index.html

3

「デザイン経営」宣言

平成30年5月、経済産業省・特許庁 産業競争力とデザインを考える研究会

→ <http://www.meti.go.jp/press/2018/05/20180523002/20180523002.html>

4

自由民主党知的財産戦略調査会提言 ～イノベーション・エコシステムの早期確立のために～ (イノベーションが自律的かつ持続的に生まれ続けていくような仕組みに向けて)

平成30年5月、自由民主党 知的財産戦略調査会

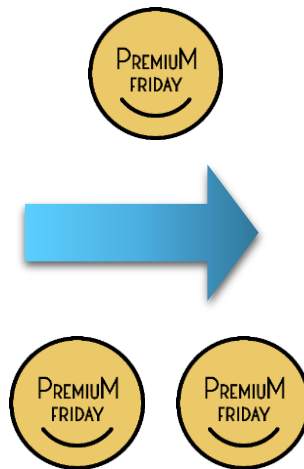
→ <https://www.jimin.jp/news/policy/137362.html>

現在

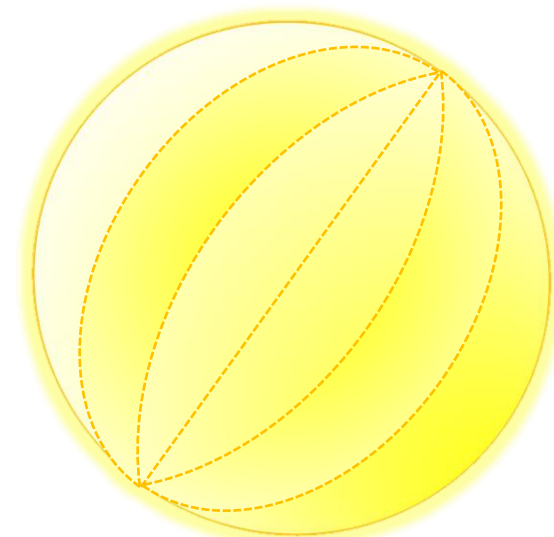


照らされた一部だけで生きている。

将来



PFなどを活用した能力開発で全体の大きさも拡大



全体に光が当たり
様々な形で自分の能力、
時間、意欲を活用できる。

知的財産戦略ビジョン(平成30年6月12日)からの抜粋

多様な人材が、個々人の有する複数の能力を、時間を区切りながら発揮することができるよう、個人の能力や時間と、そうした能力を使いたい側の要望(求める能力・役割と時間)をマッチングするシステムを一般的に利用しやすいものとして整備する。
(Fullmoon Project)

第6回会合議事要旨（抜粋）

（ブロックチェーン）

○ 例えば製薬の世界は、研究開発に時間がかかりその回収が大変なので、初期のビジネスモデルは非常に苦勞するが、昔みたいに低分子薬の時代ではないので、特許がはっきりとは使えず、かちとした特許の世界ではなくなってきた。最近、製薬業界は大量のデータを取り、薬にするまでのプロセスで資金調達をしていかないといけない。このとき、利益配分の仕組み、インセンティブを確保する仕組みとして、ブロックチェーンによるスマートコントラクトに関心が高まっている。

ブロックチェーンのシステムの中に入った方が良いと思う人が出てくると、その外側で特許制度に依存する人と、2つに分かれる。特許制度はお金がかかる。ブロックチェーンの世界は、今は無法に見えるが、実は法律が要らなくなる世界かもしれない。

○ 知財には知財のコミュニティーがあって、知財制度に依存して事業をしているわけだが、その人たちにどのようなインパクトを与えるのかを考える必要がある。

知財制度は、特許制度でいえば1474年にベニスで作られた法律であり、500年以上続き、よくできていて、人気がある。その本質はインセンティブである。もしかするとブロックチェーンによって違う世界ができるかもしれない。

○ 今の話は、次世代コンテンツの創造・活用システムのあたりに、未来はどんどん多様化し、新しい信用システムが出てきて、今までとは違う形で、信用とインセンティブの設計の仕方が根本から変わる可能性があると書けないか。